

報告期間		ユーザー様名		S I 名・指導者名	
2007年 7月 13日 (金) から		B 社様		株式会社電算	
2007年 7月 13日 (金) まで				有賀 隆夫	
製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など)					
部品塗装、製品:300種類					
生産形態、工程の要素					
<input type="checkbox"/> 組み立て <input type="checkbox"/> 機械加工 <input type="checkbox"/> 板金 <input type="checkbox"/> プレス <input type="checkbox"/> 溶接 <input checked="" type="checkbox"/> 塗装 <input type="checkbox"/> メッキ <input type="checkbox"/> 研磨 <input type="checkbox"/> 鋳物 <input type="checkbox"/> 鍛造 <input type="checkbox"/> 熱処理 <input type="checkbox"/> 実装、SMT <input type="checkbox"/> 溶解 <input type="checkbox"/> スリット <input type="checkbox"/> 切断 <input type="checkbox"/> 溶断 <input type="checkbox"/> 成型 <input type="checkbox"/> 圧延 <input type="checkbox"/> 凝固 <input type="checkbox"/> 接着 <input type="checkbox"/> 食品加工 <input type="checkbox"/> プラスチック加工 <input type="checkbox"/> 化学薬品 <input type="checkbox"/> 衣類(裁断・縫製・ホタ) <input type="checkbox"/> 皮、ゴム、紙加工 <input type="checkbox"/> 織、編 <input type="checkbox"/> 印刷(除マニュアル等)・手書き <input type="checkbox"/> 染色 <input type="checkbox"/> エッチング その他( )					
指導種類		<input type="checkbox"/> 新規導入 <input type="checkbox"/> バージョンアップ <input type="checkbox"/> 再導入 <input checked="" type="checkbox"/> その他(保守フェーズ)			
今回指導回数		1 回目			
TPiCS バージョン		3. 1			
オプション・DB		受注販売、Oracle10g			
アイテム件数	1000 件	BOM	1600 件	所要量計算	2 回/1 日
実績インプット	件/日	伝票発行	2 回/日	伝票発行	件/回
製番展開					回/月
製番展開					件/回
出席者		M氏、M氏、他4名			
今回の指導目的					
<p>2007年5月(連休明け)に本稼動して、現場の運用状況を評価しながら TPiCS で行う管理ポイントの一部絞り込む(一部払出設定をやめる)などして、導入当初の管理目的と現場の作業管理レベルの折り合いを2ヶ月ほど調整してきましたが、今ひとつ現場での TPiCS 運用に関するルールが守られない状況があり、その結果としての、遅れ、在庫精度の問題などが多々見受けられるようになってきました。</p> <p>こうした状況を1名のキーマンの方が日々リカバリーすることにより何とかシステムとして維持しつつありましたが、このままでは現状レベルの継続も難しく、ましてや当初の管理目的を実現すべくもないことから、現状を改善するための現場担当者向けの教育を実施しました。</p>					
経過(発言者と内容)					
<p>■TPiCS 運用上の主な課題</p> <p>①マスタ情報に不備が残る(入力ミス、伝票発行期間・リード日数など業務実態とずれている)</p> <p>②材料を TPiCS 以外で手書き伝票や電話で手配して、その後 TPiCS への入力を行わない</p> <p>③TPiCS の材料手配の納期や数量が変わっても TPiCS に反映しない</p> <p>④実績インプット数量・対応方法(打ち切り、分納など)を間違えている</p> <p>⑤注残・納期遅れの対処が確実に行われていない(システム上の納期と物の入荷がずれている)</p>					
<p>■教育の内容</p> <p>一般的に運用ルールが守られない原因として、</p> <p>①システムを運用する目的、自分の担当作業のシステム全体における位置づけ(重要性)が不明である</p>					

②自分で決めた運用ルールでないので理解はできるが納得していない

③そもそもルールやオペレーションに関する理解が曖昧なままである

④そうは言ってもシステム自体が、非常に面倒である

など4つのポイントが考えられるので、これらの視点から講義および演習を交えて教育を実施しました。

(1) システムの全体像の理解と利用目的を理解する

(2) 現状の運用ルールをきちんと理解する(業務とのつながりをはっきりさせる)

(3) 全体のルールを理解した上で自分のルールを自分で作る

(4) 自分の担当分の操作をきちんと覚える(間違えることへの不安を取り除く)

(5) 他の人と自分の担当分のルールを共有する(協力する、確認しあう)

(6) 業務およびシステムに対する要望、提案を率直に出してもらい自ら改善する姿勢をもつようにする

上記、(1)～(2)をまずは講義形式で説明を行い、(3)～(6)については演習形式で実施しました。(4)については既に運用も開始されていることもあり、また時間の都合で一部割愛しました。

演習については、まずは自分の業務内容を改めて紙に書出し(いわゆる業務の棚卸)、次にそれに対するTPiCSの操作との関連性を記述してもらいました。さらにそのTPiCSの操作を行うこと目的、効果、逆にやらなかった場合の問題、困る人(業務)を記述してもらい、自分の業務とシステムの関連性を整理しました。

こうした内容を、各自発表することにより、自分の認識の間違いや他の人の業務との関連を参加メンバーが相互に理解できるようにして、その結果として自分の担当するいくつかの業務の中で必ずやらなければいけない重要なルールを自分の言葉で明文化して発表してもらいました。

最後に、現行業務およびシステムに対する率直な要望、改善提案なども出してもらい今後の対応策として引き続き社に帰ってから取り組んでもらうこととしました。

## 結 論

研修後の感想などを評価しますと、やはり当初想定したポイントのとおり、自分たちのルールが漠然としていたり、それがどのような問題につながっているかが不明であったものが研修によりクリアになり、今後の改善の方向性と自ら行うべき業務内容が明確になったようです。

具体的な成果は、継続的な評価が必要ですので、保守サービスの1つとしての定期訪問を通して今後確認していく予定です。

こうした運用ルールの定着というのは、システム以前の5Sであったり、あるいは根深い企業風土といった部分も影響しますので、半日程度の教育で一朝一夕には改善は難しいものです。

今後も継続的なフォローをする必要はあるかと思えます。

以上

検討事項・要回答事項・要継続審議事項					
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
次回開催日（予定）	次回開催場所（予定）	議事録作成日		議事録作成者	
		2007年7月31日(火)		有賀	

Format1.1